

平成27年度第17回講演会 記録

日 時	2016 年 1 月 9 日
会 場	国民会館
講 師	海洋冒険家 八幡 暁
演 題	シーカヤックで世界の海を巡り、子ども達の未来を拓く
備 考	参加者数 148 名 記録 李三 文作

日焼けした精悍な顔した若い男性が、今日の講師の先生でした。海洋冒険家・八幡暁先生です。先生の講演にはレジメは用意されていません。レジメを配布しなかったのは、先生から事前に情報をあたえないで欲しいとの了解の元です。

開口一番、私のこれまでの人生は”苦悩と再生”である。海洋冒険家をしているが「海乞食」と言われている。また、数年前に TV で「悲しいぐらいアホな男」がいるとも言われ有名になってきた。大学を卒業してから一度も就職することなく遊び続けている。社会からは追放されているのだと自虐的に自分のこれまでの生き方を語り始めました。



勉強もスポーツも一番になれと言われて育てられたが、そのような子どもには成れなかった。親から会計士を目指すように言われたが、勉強やスポーツを諦め目標を見失った時に、八丈島にモリー一本で海に潜るすごい漁師がいることを知り、会いに行った。弟子にして欲しいと頼むが、その漁師よりもっとすごい人に会わせくれた。泡も出さず 20m も潜り海底を歩きモリで突き刺した魚を海面に浮上するまでに魚の処理をする漁師に会い、これは勉強している場合ではないと素潜りの漁師を目指した。この海中で見える魚を全部食べたいと思った。そして、海に生きる人に会いに行く、人の営みに会いに行くことを目標に世界中の港町を訪ねた。訪れた地の漁を学んだ。トルコ・ギリシャの港を訪れた時に、自分の捕った魚を見て懐かしいのか売ってくれと行ってきたおじいさんがいた。昔は捕って売っていたが今や誰も捕らない（経済性の低い魚は出回らない）

世界の港の旅をしている時、自分が本当に行きたいのは情報や流通などのインフラが届かない世界と感じた頃にカヤックと出会ったそうです。カヤックは移動するにも素潜りをするすごく適した道具であると知り、1年間ほど八丈島の海で猛練習した。この頃には既に先生は、カヤックで八丈島からオーストラリアまで行こうと考えていたそうです。この海域は世界で一番島が多い海域であるにもかかわらず誰も行っていない。ここは日本人のルーツの一つである。海に沈んだスンドラランド・サフルランド（ニュージーランドとオーストラリアあたりをさす）だそうです。グレートシーマンプロジェクトを計画し、4年間で終わらせるつもりであったが国境・時期・等の問題で14年間かかりほぼ8割から9割できたとのことである。小さなシーカヤックで島伝いに進むのであるが、一番困難だったのは宮古島～久米島の間 220km には島がない。不眠不休でカヤックを漕ぎ渡りきったそうです。また、黒潮の始まる島に寄った時、原住民はタゴヤシ（樹木）を食べるのですよ、皆さん樹木を食べてことありますかの質問に、間髪を入れず講座生の中から「食べたことがある」の声に先生は大変驚いた。経験豊富な自然学講座生の方々に驚きを隠せなかったようでした。

20年間遊び続けて感じたことは、そんなことをして何になると大人は考えるが、子どもは危ないことが好きである。子どもは面白いことが好きなのである。今は、子ども達に危ないことをジャブジャブさせることをやっている。皆さんも危険なことをジャブジャブしてくださいと呼びかけ講演を終了した。

誰もができそうにないような冒険をいとも簡単にやってのけるのが冒険家なのかと思った。 以上